

主な内容

特集—— 創立20周年を迎えた循環器医療センター
トピックス—— 平成30年度一般入学試験・大学入試センター試験
利用入学試験が行われました

フリーページ—— すこやかスポット 薬学講座No.5
『ニトログリセリン錠とヘルシア緑茶』

表紙写真：循環器医療センターのエントランス（2018.2.5 医用画像情報センター撮影）



創立20周年を迎えた循環器医療センター

循環器医療センターは平成9年5月20日に開院し、平成29年に創立20周年を迎えました。本学は、岩手医学専門学校創立60周年記念事業として、記念館の建設を計画しました。この記念館の中身として、県民・市民の福祉に寄与できるものとの観点に立って検討を重ね、「医学・歯学の教育施設」として講義室、管理室等の増設ならびに循環器疾患を主体とした高度医療に対応できる医療機関の整備として「附属循環器医療センター」を設置することにしました。

平成21年4月に附属病院と統合し循環器医療センターの重要性が益々大きくなる中、森野循環器医療センター長を中心に、平成31年9月の矢巾新附属病院への移転を見据えた変革を断行しています。待ったなしの状況の中、これからの展望について森野循環器医療センター長から意気込みを伺うとともに、これまでの主な歩みについて紹介いたします。



循環器医療センター創立20周年とこれからの展開

循環器医療センター長 **森野 禎浩**
(内科学講座循環器内科分野 教授)



平成29年10月9日、ゆかりのある方々が多数集まり、循環器医療センター創立20周年記念祝賀会を盛大に開催致しました。ご参集いただいた方々に篤く御礼申し上げます。

当センターは、北日本随一の循環器専門病院として、自己研鑽し、高度医療を提供して参りました。20年間1日も休まず続けたハートチームカンファランスや、高度な放射線画像・生理学診断力を基礎にチーム医療にこだわってきたことが、成功の本質でしょう。

平成29年から構成メンバーが一新し、これを契機に運営システムの見直しに取り組みしました。毎週のように集まって意見を出し合い、センター全職種で「改善」を繰り返しました。連携センターに介入を依頼し、「1日検査数・手術数の暗黙のルール」も一旦リセットし、スムーズな入退院の仕組み作りと治療ニーズに基づく医療資源のフレキシブルな運用を目指しました。成果は忽ち現れ、過去に本学が経験したことのない規模の稼働増を記録しております。

平成31年9月、新病院への移転を契機に、皆様の知る循環器医療センターを発展的に解消し、新時代を見据え構造変革を断行します。循環器診療の近未来を予測すると、医師不足や人口減少からむしろ周辺からの依存度が増し、我々

にしか提供できない医療行為が増え、新幹線の北海道延伸や高速道路の拡充などインフラ整備が進みます。北東北3県を中心に位置する我々は、新しいニーズを予想し、合致した医療設計をしなければなりません。

MICS（低侵襲手術）を特色に、国内有数の心臓外科手術数を見込みます。小児医療も高度なものからさらに集約化が進むでしょう。すでにこの地域で寡占的に施行するTAVIやASD閉鎖に加え、僧帽弁クリップや左心耳閉鎖術などの次世代カテーテル医療は日本をリードできるでしょう。これら「縦の糸」たる診療科に加え、放射線科や麻酔科が「横の糸」となり強固な布を織りなし活動して来たわけですが、たとえ「建物」を失っても、結びつきを強める方法は無数にあると考えています。

「日帰りカテーテルセンター」、「ストラクチャーハートセンター」、「伝送・遠隔医療・低侵襲治療・ロボット手術」は、取り組むべき新規事業のキーワードとなるはずですが、皆様へのサービス及び医療レベルの向上を変わらぬ課題に据え、職員一丸となって新時代を切り開いて参りたいと思います。皆様の変わらぬご支援を宜しくお願い致します。

● 平成9年2月 岩手医科大学創立60周年記念館竣工

平成6年12月に着工した創立60周年記念館が平成9年2月28日に竣工し、3月26日には落成式と祝賀会が盛大に行われました。

また、循環器医療センターは、平成9年5月20日から開院し、弘前大学病院から急性心筋梗塞の患者さんがIABP（大動脈内バルーンポンピング）とレスピレーターの重装備で搬送され、センター第1号の手術例となりました。



● 平成11年5月 循環器病診療総合支援ネットワークシステムを始動

岩手県が循環器病の予防、診療及び研究の高度化を図るため循環器医療センター内に設置を進めていた「循環器病診療総合支援ネットワークシステム（循ネット）」の始動式が、平成11年5月17日に当センター4階において行われました。このシステムは、全国の循環器病専門医療機関をネットワークで結び、瞬時の判断と対応が必要な心臓病、脳卒中の急性期に的確な医療を提供するために、基幹的施設が心臓カテーテル画像、超音波検査画像、CTなどのX線診断画像を含む大量のデータを循ネットの基盤を利用して交換し、評価・分析を行うものです。全国で10番目となる循ネットへの参加は、大学病院・私立医療機関では初めてのことでした。



● 平成24年7月 世界第1号の第2世代320列CTを導入

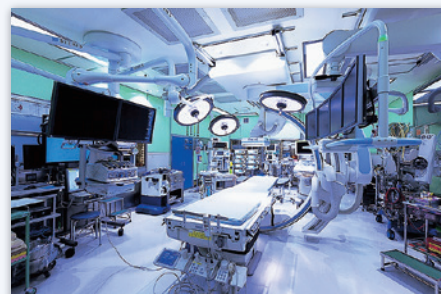
平成24年7月に導入した第2世代320列CTは、当時の実用機としては世界第1号機で、第1世代の320列CTより高速で低侵襲の撮影が可能となり、冠動脈疾患や弁膜症などの心疾患の診断精度が大幅に向上しました。また、放射線被ばくも低減されたことから、特に小児における先天性心疾患の診断に威力を発揮しています。

この装置の開発には、高度な診察技術の確立を目指した国産CTメーカーと本学との産学共同研究の研究成果が多く採り入れられ、本学が先陣を切った本機は、日本ばかりではなく、欧米を中心に世界中の医療機関に導入されるようになりました。

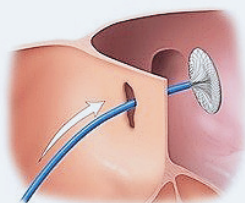
● 平成25年4月 最新鋭機器を備えたハイブリッド手術室の運用開始

ハイブリッド手術室（hybrid operation room; HOR）とは、冠動脈治療や末梢血管治療と同等の診断精度を有するX線透視装置を手術室内に設置した、高機能の手術室です。大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術をはじめ、TAVIなどの構造的な心疾患治療には必須の設備です。

当センターでは、最先端の治療技術をいち早く取り入れるべきだという強い思いで、平成25年3月に導入しました。



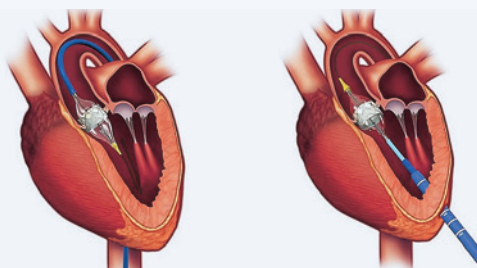
● 平成25年5月 心房中隔欠損症（ASD）に対するカテーテル治療を開始



これまでの心房中隔欠損症の治療は、開胸による外科手術が唯一の治療法でした。より低侵襲に欠損孔を閉鎖できないか、と考案されたのがアンプラッツァー閉鎖栓によるカテーテル治療です。足の付け根からカテーテルを入れて欠損孔を閉鎖する画期的な治療法で、外科手術に比べると体への負担は格段に少ない治療法です。平成17年より日本でも治療が可能となり、当センターでもより低侵襲な治療をめざし、平成25年に施設認定を受けてカテーテル治療が可能となりました。

● 平成25年12月 北日本で第1例目のTAVI（経カテーテル的大動脈弁留置術）を施行

TAVI（タビ）は機能が低下している心臓の弁（大動脈弁）をカテーテルと呼ばれる医療用の管を用いて人工の弁と置き換える治療法です。これまで手術に耐えられないと判断された高齢の方などにも可能な大動脈弁狭窄症の新しい治療方法となります。日本では平成25年10月に保険償還され、当センターでは同年12月末に北日本で第1例目となる経大腿アプローチのTAVIを施行しました。また、翌年1月には第2例目を施行するとともに、北日本で第1例目の経心尖アプローチによるTAVIを施行しました。



経大腿（左）と経心尖（右）アプローチ法

● 岩手医科大学附属病院循環器医療センター 創立20周年記念祝賀会を開催

平成29年10月9日、盛岡グランドホテルにおいて、循環器医療センター創立20周年記念祝賀会を開催しました。当日は、小川理事長、祖父江学長をはじめ、本学教職員、関係者ら約130名が出席しました。

始めに行われた記念式典では、房崎循環器医療センター医局長が開会の挨拶を述べ、小川理事長、祖父江学長から祝辞を頂きました。その後、小児科学講座の小山教授による記念講演「循環器医療センター 20年間の歩み」が行われ、創立から現在に至るまでの歩みをスライドを交えて講演頂きました。式典は、森野循環器医療センター長の挨拶で幕を閉じ、引き続き記念祝賀会が行われました。佐藤医学部長による乾杯で祝宴の幕が開き、循環器医療センターにゆかりのある方々からスピーチを頂きました。各テーブルでは昔話に花が咲き、和やかな雰囲気での歓談となりました。盛況の中、心臓血管外科学講座の金教授の閉会の挨拶により記念祝賀会は閉会となりました。



小山教授



森野循環器医療センター長



金教授

終わりに

創立60周年記念館は「落ち着いた色彩でシャープな印象を与えるデザイン。風格と高いシンボル性を表現している。」と評価され、平成9年11月に盛岡市都市景観建築賞を受賞しました。この賞は、豊かな自然と美しい街並みに調和した建築物などを表彰するもので、42件の応募から4件が選ばれての受賞でした。それから20年間、盛岡市中心部の象徴的建物として、また循環器疾患の高度専門医療と急性期医療を担う循環器医療センターとして発展を遂げてきました。この発展の本質には、日々の取り組みで築き上げてきた「チーム医療」がありました。

来年9月に控えた矢巾新附属病院への移転により、循環器医療センターの機能は新病院へと受け継がれていきますが、職員一丸となって築き上げてきた強固な「チーム医療」により、今後更なる発展を遂げていくことでしょう。

(大学報編集委員会事務局)



エフエム岩手 ラジオ番組「岩手医科大学 ～いのちから～」

2018年3月の放送予定（毎週日曜9：30～9：55）

放送日	テーマ	出演		
3月4日（日）	法歯学・災害口腔医学分野について	法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野	准教授	熊谷 章子
3月11日（日）	知っておきたい災害医療	救急・災害・総合医学講座 災害医学分野	教授	眞瀬 智彦
3月18日（日）	地域で働く看護職の役割について	地域包括ケア講座	教授	野村 陽子
3月25日（日）	未診断疾患イニシアチブ	臨床遺伝学科	教授	福島 明宗

- 放送内容は都合により変更となる場合があります。
- 過去放送分は、エフエム岩手ホームページ（<http://blog.fmii.co.jp/inochikara/>）でお聴きいただけます。
- 放送に関するお問い合わせは、企画調整課（内線：7023）までご連絡ください。

平成30年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験が行われました

平成30年度の岩手医科大学入学試験は、1月17日(水)に医学部一般一次試験、1月26日(金)に歯学部一般前期試験・センター試験利用入試(前期)及び薬学部一般前期試験、1月26日(金)・27日(土)に医学部一般二次試験、2月6日(火)に看護学部一般前期試験が行われました。

志願状況は、医学部一般が3,350名(前年度比-271名)、歯学部一般前期・センター試験利用入試(前期)が69名(前年度比-25名)、薬学部一般前期・センター試験利用入試(前期)が153名(前年度比-75名)、看護学部一般前期試験が207名(前年度比-32名)となりました。



医学部一般一次試験(名古屋会場)

平成29年度高度看護研修センター認定看護師教育課程(緩和ケア分野)修了式が行われました

1月25日(木)、創立60周年記念館10階会議室において、平成29年度高度看護研修センター修了式が行われ、認定看護師教育課程(緩和ケア分野)12名に修了証書が授与されました。

緩和ケア分野の教育課程は、北海道・東北で当センターが唯一の研修機関であり、8ヵ月間にわたる教育を受けて、日本看護協会が実施する認定審査(5月)に合格すると、認定看護師の資格が得られます。

式では、木村副センター長(寺山センター長代理)から「科学的な論理、表現方法、問題解決法を習得し、専門的な緩和ケアを提供するうえで、重要な役割を担うに相応しい資格を得たわけであります。この晴れの日を新

たな出発点として、各自の臨床現場において、チームの重要な一員として活躍していただきたい」と式辞が述べられ、続いて鈴木副病院長(杉山病院長代理)より「研修で習得した緩和ケアの知識や高度な技術を現場で活かし、質の高い看護を実践する指導者として活躍してほしい」と祝辞が述べられました。

最後に修了生を代表して八戸赤十字病院の足澤 ちか子さんから「共に悩み、励まし合い高め合える仲間との8ヵ月間は、看護師人生においてかけがえのない時間となった。修了生としての誇りを忘れず、チームの一員としてその人にとっての最善のケアを提供していきたい」と力強い決意が述べられました。



修了証書授与



修了生謝辞

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第20回目の御芳名紹介です。(平成29年11月1日～平成29年12月31日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等 (30件)

<5,000,000>

医療法人社団 細見クリニック (兵庫県丹波市)

<1,000,000>

医療法人 宣誠会 古川産婦人科 (福島県郡山市)

医療法人社団 光寿会 ささきクリニック (岩手県花巻市)

医療法人 圭仁会 佐藤病院 (北海道滝川市)

医療法人社団 敬和会 (岩手県北上市)

医療法人 永岡医院 (福島県郡山市)

<300,000>

医療法人社団 藤井内科医院 (北海道浦河郡)

<100,000>

医療法人 幸生会 (大阪府河内長野市)

医療法人 颯桜会 たぐち脳神経外科クリニック (岩手県盛岡市)

株式会社 鎌田鋳金工業 (岩手県花巻市)

医療法人 小沢眼科内科病院 (茨城県水戸市)

株式会社 佐々木組 (宮城県仙台市)

株式会社 近藤設備 (岩手県北上市)

幸栄丸水産 株式会社 (岩手県久慈市)

盛岡ガス工業 株式会社 (岩手県盛岡市)

圭陵会 兵庫支部 (兵庫県神戸市)

<50,000>

有限会社 渥美工務店 (岩手県滝沢市)

<20,000>

株式会社 サンエーテック (宮城県黒川郡)

有限会社 高橋資材 (岩手県紫波郡)

<御芳名のみ掲載>

医療法人 千葉耳鼻咽喉科医院 ちば耳鼻咽喉科クリニック (岩手県盛岡市)

株式会社 木津屋本店 (岩手県盛岡市)

医療法人社団 平田皮膚泌尿器科医院 (北海道函館市)

医療法人 豊島医院 (岩手県宮古市)

医療法人 明生会 小坂町診療所 (秋田県鹿角郡)

医療法人 同愛会 小澤病院 (神奈川県小田原市)

医療法人社団 北良会 かさい睡眠呼吸器クリニック (岩手県北上市)

医療法人 医尽会 (秋田県由利本庄市)

あおば歯科小児歯科クリニック (岩手県盛岡市)

圭陵会 宮古支部 (岩手県宮古市)

洋野町国民健康保険種市病院 (岩手県九戸郡)

(順不同、敬称略)

●個人 (169件)

<1,000,000>

鈴木 千枝子 (歯12)

葛 但寛 (医27)

堅村 信介 (父母)

森 勇樹 (医41)

駒井 一雄 (父母)

金子 克 (名誉教授)

栃内 秀彦 (医19)

村上 靖 (医30)

須藤 守夫 (医13)

<500,000>

内村 忍 (医22)

藤田 登志也 (父母)

<200,000>

川澤 修平 (父母)

藤田 崇 (医5)

<100,000>

小野寺 勲 (役員)

大澤 浩 (医31)

長崎 昭憲 (歯3)

松崎 徹 (父母)

西 修一郎 (顧問)

和田 良勝 (父母)

小野寺 満 (歯8)

天野 博雄 (教職員)

日野 忠臣 (医7)

三浦 良雄 (他31)

牧田 芳久 (医13)

狩野 茂之 (医44)

<50,000>

大泉 早苗 (医11)

杉山 晶規 (教職員)

勝見 右 (医6)

熊谷 隆司 (顧問)

遠野 千尋 (他60)

<30,000>

満川 元貞 (医45)

佐野 利之 (医22)

<10,000>

辻 孝 (父母)

大矢 勝広 (父母)

児島 雅 (父母)

菊池 勝博 (父母)

藤野 忠志 (父母)

佐藤 晴美 (父母)

遠藤 芳彦 (医36)

佐藤 清行 (父母)

煙山 信夫 (元職員)

佐藤 健一 (父母)	高木 一正 (父母)	長谷川 行洋 (医9)
石川 鉄郎 (父母)	田村 明生 (教職員)	西方 広幸 (父母)
西村 孝志 (父母)	桂島 忠俊 (医42)	三上 一治 (医29)
岡口 守雄 (歯16)	小野 繁 (名誉教授)	杉藤 正典 (父母)
<御芳名のみ掲載>		
善積 昇 (医21)	坂本 一茂 (父母)	本間 信 (父母)
鈴木 秀 (医29)	加藤 公彦 (医41)	豊川 保雄 (医7)
鈴木 敏夫 (父母)	高田 誠 (父母)	渡辺 孝志 (医11)
高橋 和夫 (父母)	三浦 孝一 (専17)	竹井 哲也 (父母)
三浦 幸枝 (教職員)	小守林 尚之 (歯1)	佐藤 由香子 (医30)
百川 弘通 (父母)	宮田 恵 (医38)	齋藤 俊哉 (教職員)
鈴木 一幸 (名誉教授)	本田 信也 (医43)	小野寺 正二 (教職員)
山口 智 (医36)	森本 紳一郎 (医23)	藤沢 功 (教職員)
小澤 正吾 (教職員)	清水 梨奈 (医66)	佐藤 宏昭 (教職員)
安藤 昌之 (父母)	泉 清一 (父母)	板倉 康太郎 (医28)
菅原 利之 (父母)	刑部 光正 (教職員)	小原 洋子 (医17)
宮澤 和男 (歯22)	今野 紀昭 (父母)	小原 智子 (医44)
鈴木 保永 (父母)	石田 和之 (教職員)	高橋 真 (教職員)
鈴木 泰 (父母)	熊谷 俊一 (医25)	佐々木 忍 (父母)
塚原 央之 (医52)	中塚 滋 (父母)	白岩 和香苗 (医49)
佐藤 朗 (医30)	菊池 昇 (専16)	牛島 弘雅 (教職員)
齋藤 真 (歯21)	安藤 由美子 (父母)	黒田 啓美 (医26)
山野 泰穂 (父母)	中島 有紀子 (医63)	杉山 育美 (教職員)
木暮 淳志 (父母)	田中 完 (父母)	土肥 守 (医32)
池田 敏 (父母)	平澤 昭 (父母)	増戸 武保 (医9)
御供 政紀 (医15)	増田 友之 (教職員)	別所 啓司 (医27)
吉田 彰英 (歯25)	赤星 克哉 (父母)	伊吹 令二 (父母)
安田 司 (父母)	佐藤 正孝 (父母)	照井 祐光 (父母)
吉田 達朗 (教職員)	鳥谷 宗正 (医24)	矢野 美保 (医45)
佐藤 誠也 (教職員)	鳥谷 恭右 (歯35)	小玉 真夫 (医7)
小南 ちひろ (医43)	山口 千賀志 (父母)	佐野 公昭 (医33)
松村 猛 (歯14)	田中 弘 (父母)	北川 隆之 (名誉教授)
佐藤 方信 (名誉教授)	金崎 直也 (父母)	後藤 淑子 (父母)
肥田 憲彦 (医46)	三浦 秀寛 (父母)	石井 教之 (父母)
黒田 貴顕 (医52)	高橋 悦郎 (父母)	林崎 幸枝 (父母)
高橋 純子 (教職員)	遠藤 龍人 (教職員)	米谷 則美 (医30)
中村 義孝 (医6)	熊谷 仁 (教職員)	小原 賢一 (歯25)
佐柄 英人 (父母)	原田 宏 (父母)	吉井 英一 (父母)
塩浦 緋佐子 (医11)	鎌田 俊 (歯35)	阿部 知成 (専19)
榊 政光 (父母)	根本 康 (医5)	日野 勝彦 (父母)
千葉 隆史 (医41)		(順不同、敬称略)
佐藤 馨 (医34)		
吉田 直樹 (父母)		
鈴木 智彦 (医43)		
鈴木 俊彦 (医15)		
岡本 伸夫 (父母)		
菊月 由理子 (歯13)		
菊月 圭吾 (歯9)		
林田 賢聖 (医45)		
戸田 和則 (父母)		
平山 脩 (歯1)		

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	686	459,735,089
在 学 生 ご 父 母	495	239,160,000
役員・名誉教授	70	85,690,000
教 職 員	168	23,977,000
一 般	69	28,750,000
法 人 ・ 団 体	211	729,193,000
合 計	1,699	1,566,505,089

(平成 29 年 12 月 31 日現在)



薬学部6年生の米内 和暉さんが第56回日本薬学会東北支部大会 において優秀ポスター賞を受賞しました

この度、薬学部6年生の米内 和暉さん（臨床薬剤学講座、写真右）が、第56回日本薬学会東北支部大会（平成29年10月21日：青森大学）におきまして、演題「乳腺上皮細胞はカテコールアミンを合成し、母乳中へ分泌しているか？」を発表し、優秀ポスター賞を受賞しました。研究成果は、ヒト母乳中に存在するノルアドレナリンが、母乳産生を担っている乳腺上皮細胞によって合成されていることを示したものです。ヒト母乳中にカテコールアミンの一つであるノルアドレナリンが存在していること、乳腺上皮細胞にその合成酵素が発現していること等を初めて明らかにしたことが高く評価されました。また、本研究は、医学部産婦人科および産婦人科病棟との共同研究で行われており、授乳期乳腺にこれまで知られていなかった新たな生理機能が存在することを示唆するものです。

これまで本研究に御協力いただいた皆様に感謝し、今後もさらに研究を発展させられるよう努めて行きたいと考えています。

（文責：臨床薬剤学講座 千葉 健史（写真左））



新任教授の紹介

平成 30 年 1 月 1 日就任

人間科学科心理学・行動科学分野

相澤 文恵（あいざわ ふみえ）

昭和 33 年 9 月 3 日生
岩手県奥州市出身



研究テーマ

- ・行動科学の医療への応用、チーム医療、予防菌科学、公衆衛生学

主な著書論文

- ・「チーム医療リテラシー」参加による学生の社会的スキルとIPEの準備状況の変化
（岩手医大教養教研年報, 52, 45-54, 2017）
- ・個人的エンパワーメントをターゲットにしたオーラルヘルスプロモーションのための指導者育成
（APJPH. 2015;27(2):NP2305-15）
- ・高校生の口臭に対する意識からみる自臭症リスク要因の行動科学的検討（口腔衛会誌, 2000;50:189-196）

趣味

温泉旅行、映画鑑賞、読書

教職員への自己PR

行動科学の医療への応用を研究テーマとしてまいりました。現在、行動科学の理論は生活習慣病の予防や治療効果の向上に必要な患者の意思決定支援や、患者・医療者間の信頼関係の構築に不可欠なコミュニケーション能力の育成と態度教育に用いられています。今後は、これまでの研究成果と教育経験をもとにして、患者を全人的に理解し、それぞれが目指す異なった健康と幸福の実現を支援できる医療者を育成するために力を尽くす所存でございます。ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

経歴

昭和 56 年
昭和 56 年
昭和 62 年
平成元年
平成 4 年
平成 6 年
平成 7 年
平成 27 年

平成 30 年 1 月

岩手大学人文社会科学部人文社会科学科卒業
岩手県立博物館非常勤専門職員
岩手医科大学歯学部口腔衛生学講座 副手
岩手医科大学歯学部口腔衛生学講座 助手
岩手大学大学院人文社会科学部研究科修士課程（行動科学専攻）修了
国立予防衛生研究所口腔科学部協力研究員
岩手医科大学歯学部予防菌科学講座助手に配置転換
岩手医科大学教養教育センター
人間科学科心理学・行動科学分野 准教授
現職

大学報原稿募集

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活潑な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、サークル紹介、学報への感想など、幅広くお受けします。（表紙写真も募集しています）

また、特集してほしいテーマや、各コーナー（「表彰の栄誉」「トピックス」「教職員レター」など）への掲載依頼などもお待ちしております。事務局までご連絡ください。

連絡先

大学報事務局（企画部企画調整課）
内線 7022
kikaku@j.iwate-med.ac.jp

シリーズ 職場めぐり

No.120

看護専門基礎講座

看護専門基礎講座では、「患者さんの病態を理解しながら安全で適確な看護」を行うために、体内の環境を維持する仕組みや日常の看護医療において遭遇する病気の症状、病態生理、検査・診断および治療法等に関する教育と実務に基づく研究を行っています。

第1期生を迎え、生化学、栄養学、感染免疫学などの授業を担当しました。目を輝かせて学ぶ学生、専門用語の多さや難しい概念に悩む学生など、学生の反応は様々でしたが、共通しているのは将来の目標に向かって真摯な態度で学業に取り組む姿でした。

看護学部および医学部、歯学部、薬学部、教養教育センターの他の講座や附属病院と連携し、本学部の学生が将来の優れた看護専門職者として相応しい素養を身につけられるよう、また、医療現場で事実を客観的に捉え、正し

い思考方法や研究を通じてアプローチする力を身につけられるよう、スタッフ一同で教育と研究の支援に努めています。

(准教授 塚本 恭正)



地域医療連携センター (入退院支援担当)

地域医療連携センターは、「つながる医療」の実現に向け設置され、多職種で構成されています。入退院支援担当の看護師は、通院や入退院における一連の流れの中で、患者さんが安心して医療を受けられるよう、「看護が切れ目なくかわれる体制」を目指しています。

現在は、ベッドコントロール業務、PFM (Patient Flow Management)、退院支援業務を行っています。ベッドコントロール担当は、各病棟責任者と毎日ミーティングを行って病床利用状況・空床状況を可視化し、スムーズな病床運用を図っています。また、PFM担当は、外科・泌尿器科の一部で入院前から患者さんのリスクを把握して適切な医療、療養環境の提供につなげています。退院支援担当は、病棟毎に配置され、外来・病棟看護師と連携して入院早期から退院困難な患者さんを抽出しています。そして、病気や障害を抱えた患者さん・ご家族の在宅生活を支えていくた

めの懸け橋となるよう、地域とのつながりをもち、多職種と連携した退院支援に取り組んでいます。

(主任看護師 齊藤 典子)



健康管理センター

健康管理センターは、学生及び職員の健康管理を一元的に行うことを目的に平成17年に設置された組織で内丸(写真左)と矢巾(写真右)の両キャンパスにあります。現在、石垣センター長(内科学講座糖尿病・代謝内科分野 教授)のもと、学校医、産業医のご支援を得て、保健師5名、臨床心理士2名、事務員3名の計11名の体制で学生・職員約5,800名の健康管理業務にあたっております。

業務では、各種健康診断、ワクチン接種、健康相談や心理相談、保健室業務、長時間労働対策、ストレスチェック、心の健康問題により休業した職員の職場復帰支援、研修やセミナーの企画などを行っています。



学生及び職員の皆様が、安心して学生生活や業務に従事できるよう、心身両面からサポートして参りたいと思いますので、今後とも引き続き関係各位のご支援とご協力をお願い申し上げます。

(事務室長 澤田 幸司)



畠山 正充
presents

～ドッグワン北上～

大樹が織なす四季の中での愛犬とのひととき

さて、今年は犬年ですね。ビーグル犬 2 匹と生活している私はそれだけでワクワクしていますが、そんな愛犬家も多いのではないのでしょうか？

冬は雪遊びができて犬達も楽しそうですが、今年は一月から記録的にめっきり寒い。休日もつい籠りがちではありませんか？そこで今回は愛犬と一緒に雪原をおもいきり走り回れる場所を紹介します。

北上市のドッグラン「ドッグワン北上」です。

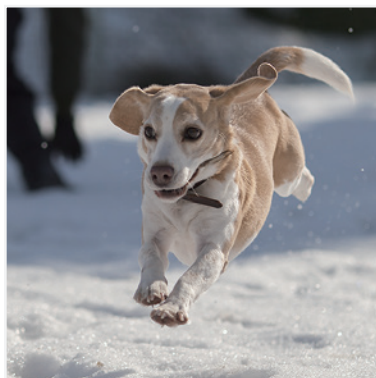
国道 4 号を北上方面へ南下、富士大学を右に過ぎながら、北上市に入ってほどなくを右折した飯豊中学校の裏にあります。周りは林に囲まれているのですが、その敷地に入ると立ち並ぶ巨木と広い芝生にちょっと驚きます。

広さはなんと 3,000 坪！その中には大型犬や小型犬専用、とにかく広い芝生ラン、ゆっくりくつろげる木陰ラン、はたまたアジリティー競技用のスペース等、いくつかに分けられているので、いろいろな犬達と交流できるのももちろん、家族だけで楽しみたいとか、オフ会で集まりたいといった要望にも対応してくれます。

「ドッグワン北上」はオープンから約 10 年で、私と愛犬はその頃からの付き合い
です。当初は知る人ぞ…みたいな感じでしたが、利用者もどんどん増えて県外から
の方々とお話する機会も多くなりました。

なぜ岩手にこんな巨木が立ち並ぶ奇跡のドッグランが出来たのか？ここを管理運営している東北緑性株式会社の社長、高橋大作さんに聞いてみたところ、そもそこの場所は日本製紙の工場があった所で、工場が撤退する際にそれまで植生を管理していた高橋さんが引き受けたのだそうです。

特に目を引く大きな木はスギ科のメタセコイアで、30mぐらいになるのですが、ココに植えられているのは 東京オリンピック前後に植えられたという事で樹齢 50 年程度とのこと。メタセコイアが最初に日本に来たのが 1949 年という事なので、ココのメタセコイアは日本においてかなりの古株という事になりますね。さすが日本製紙。ちなみにメタセコイアは他にもいろいろ面白いエピソードがある木なのですが、くわしい話は割愛させていただきます。興味のある方は調べてみて下さい。



ほかにサクラやトウヒなどにかく立派な樹木が茂っているので、夏には木陰で涼しく、秋にはふかふかの落ち葉で埋めつくされたりと、四季を通して楽しめます。

厳しい冬ももう少しで終わりです。今のうちに「ドッグワン北上」で愛犬たちと思い切り雪と移りゆく季節を堪能しませんか？

ドッグワン北上 岩手県北上市村崎野 12-179
0197-68-4858
AM10:00 ～ PM5:00 (火曜休)

一頭につき ¥400 (飼主は無料です)
 お得なシーズン会員、年会員もありますよ。



理事会報告（12月定例－12月18日開催）

1. 教員の人事について

医学部救急・災害・総合医学講座救急医学分野 准教授

山田 裕彦（前 同分野 特任准教授）

（発令年月日 平成30年1月1日付）

2. 職員の人事について

副薬剤部長（兼務）

富田 隆（現 薬学部臨床薬剤学講座 准教授）

（発令年月日 平成30年1月1日付）

平成29年度卒業式のご案内

●岩手医科大学・岩手看護短期大学

日 時：平成30年3月15日（木） 午前10時30分から

会 場：盛岡市民文化ホール 大ホール

●岩手医科大学医療専門学校

日 時：平成30年3月13日（火） 午前10時から

会 場：歯学部4階 講堂

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰 佐藤真結美
影山 雄太 菊池 初子
松政 正俊 工藤 正樹
齋野 朝幸 熊谷 佑子
藤本 康之 安保 淳一
白石 博久 佐々木忠司
成田 欣弥 畠山 正充
遊田由希子 佐藤 侑子
佐藤 仁 武藤千恵子
小坂 未来 高橋 慶
藤澤 美穂

編集後記

本号の特集は「創立20周年を迎えた循環器医療センター」でした。この特集の中で、矢巾新附属病院における新体制に向けて、循環器医療センター長の 森野 禎浩 先生は『たとえ「建物」を失っても、結びつきを強める方法は無数にあると考えています』と述べていらっしゃいます。これは、大きく進化しつつある本学の全教職員への言葉と考えても良いように感じました。この大学報も、人の結びつきを強める方法の1つとして、ご活用いただければと存じます。

（編集委員 松政 正俊）

岩手医科大学報 第497号

発行年月日 平成30年2月28日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL. 019-651-5111（内線7023）

FAX. 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

スポット薬学講座

創剤学講座 教授 佐塚 泰之



ニトログリセリン錠とヘルシア緑茶

くすりには様々な形があり、当講座はこの剤形を研究・教育の主体に据えています。剤形は厚生労働大臣が薬事・食品衛生審議会を経て定めた医薬品の規格基準書である日本薬局方に規定されており、現在、70剤形以上が収載されています。この中にニトログリセリンに代表される舌下錠があります。舌下錠は口腔粘膜より速やかに有効成分が吸収され、門脈を経ずに循環血に到達するので肝初回通過効果を回避できます。投与数分で最高血中濃度に到達し速効性を有することより、ニトログリセリン舌下錠は狭心症発作時の症状改善に用いられます。

ニトログリセリンはダイナマイトの原料であり、この製造工場で働いていた狭心症患者が、工場では発作が出ないことより治療薬となったと言われています（諸説有）。しかしながら非常に揮散性が高く、有効成分が減少するとともに布、紙等に吸収され爆発性を有するため、舌下剤の入った瓶には紙を入れないこと、上着の内ポケットにしまわないこと、などの制約がありました（本錠剤は2015年販売中止）。一方、現在使用されているニトログリセリン舌下錠であるニトロペン舌下錠はこの不便さを解消するために製剤学的な工夫がなされています。

ところで、特定保健用食品であるヘルシア緑茶には、エピガロカテキンガレート（EGCG）が高濃度含まれていますが、EGCGは緑茶の苦み成分

ですので、そのままでは非常に苦い飲料となります。実は、この苦みをマスキングするためにニトロペン舌下錠と同様の方法が用いられています。

D-グルコースを環状に6～8個結合させたシクロデキストリン（CD）は、その環の中に脂溶性薬物を取り込み包接化合物とすることができます。グルコースは水溶性ですので、難溶性の薬物をCDに包接することにより、溶解性の向上が見込めます。ニトログリセリンの場合、CDと包接化合物にすることにより、その揮散性を抑制し安定化を図ることができます。同様にCDでのEGCG包接化がEGCGの苦みを抑制することとなります。この方法はチューブタイプの練わさびの辛味保持やあるサプリメントの吸収改善にも利用されています。

このような身近なものにも利用されている医薬品の製剤的工夫は、治療効果改善や服薬コンプライアンスの向上に用いられています。

舌の下で
服用する
舌下錠

